



大野木昭夫社長

**【新社名でグローバルを目指す】**

Q) 社長の今までの経歴は?

昭和51年、立命館大学土木工学科を卒業後帰鳥し、当社の親会社である美保テクノスへ入社しました。現場監督業務を14年間務め、46歳まで部長職に従事。その後企画業務を任せられ、介護事業と言う建設業とは異なる事業を立ち上げ、現在もその会社の社長を兼務しています。平成15年、サンイン技術コンサルタントの社長に就任しました。当時、建設業界は冬の時代で、社員は68名。今では約倍の人数にまでになり、職場環境改善のために今年新社屋を建て、社名をエスジーズに改めました。事業拡大を図るため大阪のお客様との

商談の際に、「はるばる山陰からいらっやいましたか」と言われ、いつかは社名から「サンイン」を外してグローバルな会社になりたいと決意し、新社屋に合わせて改名しました。

**【社長はオーケストラの指揮者】**

Q) 社長就任後の事業立て直しはどのように?

従業員は将来が見えないのが一番の不安ですので、どんな会社になりたいかを社員に示すことから始めました。社長は「社訓を示し、仕事の受注のため自ら責任者として大阪に営業所を構えるなど、姿勢を示しました。私は、社長はオーケストラの指揮者のようなものだと思います。演奏者(社員)がいい演奏(仕事)をいいバランス(調和)で行えるように導いて行っています。まだまだ「地域からグローバルへ」の目標達成に向けて道半ばです。

**【社員の出身学部、職歴は多様】**

Q) 社名変更に伴い、事業内容も変化しましたか?

土木の業務は「測量」という基本的な部分は昔から変わらない。他社と違うのは環境事業に力を入れているという点です。土壌汚染などの

地盤調査、生態系調査などです。土木だからと言っても土木系の学部だけでなく、他の学部や文系学部出身の社員もいます。現在、土木事業のDX化を推進していて、ドローンやスキャナによる測量や設計で3Dデジタルデータ化を進めていますが、その責任者は経済学部の出身です。自衛隊出身の社員もいます。大学で専門的基礎的な知識を得るのはもちろん大切ですが、それに固執することなく自分のやりたい事を見つけて、勝負は社会に出てから如何に勉強するかです。今の学部にとらわれず、大学4年間に自分の興味ある分野を見つけてください。

**【ベトナム人社員と大山登山へ】**

Q) 業界として外国人の雇用は増えていますか?

当社はベトナム人女性を採用しています。県内同業者も外国人の雇用は多いと聞いています。ベトナムは現在コロナが大変で、帰国できず寂しい思いをしているようで、先日は社員に誘われて大山登山に行きまして筋肉痛になったと話していました。単身で日本に来て、語学から専門技能まで習得しようというのですから、やる気は半端ではないです。

これからますます外国人人材は増えてくると思います。日本人の雇用においても、一昨年から普通高校の人材を採用しています。入社後、社員として1年間専門学校に通わせて、基礎知識を学ばせた後、業務に就かせるようにしています。高専は、環境分析分野出身の女性社員を採用しています。現在30人以上の女性社員がいて、ほとんどが技術職です。

**【行政の壁もこじ開けたい】**

Q) 日本に災害が多くなっているが、足りていないと感じるモノ・人材は? 私たちは災害が起きると、真っ先に被害状況を確認し、補修方法と補修における査定を行います。ところが、昨今の大規模災害ではひとつの企業や県内では行える仕事量ではなくなりました。全国の同業者が支援をしなければならぬような規模です。一方で行政は、大規模災害の経験が少ないのに加えて、組織構造の弊害なのか支援がスムーズに進まない。この柔軟性を失った行政が、問題ではないかと感じています。私たちは日々の業務で様々な壁にぶつかり、その度にこじ開けて来ていますが、日本のインフラ整備を担う者として、この行政の壁を痛感します。



松田裕太さん 入社8年目 環境調査チーム



大村智哉さん 入社1年目 設計チーム

**【災害を目の当たりにして決意】**

Q) 入社した動機は?

(松田)鳥根大学の生物資源科学部で生き物の生態に関する勉強をしていて、地元で関係する仕事したいと思い入社し、生き物の仕事を中心に行っています。3年前に後輩が入社し、先輩という立場で仕事のやり方が少しだけ変わってきています。(大村)岡山理科大学の生物地球学科を卒業しました。岡山の豪雨災害を目の当たりにして、一瞬で人間の生活が危険にさらされるのを痛感し、ゼミで防災気象学を専攻。米子地域のハザードマップの見直しを研究テーマにしました。地元の災害対策に貢献したいと思い入社しました。

**私たち こんぱ会社**

設立: 昭和51年5月 米子市  
従業員: 125名(女性32名)  
令和3年8月現在  
社名変更: サンインの(S)、技術の(G)を継承 S: 凄、G: 技術者、s: 集団を表す

**【事業内容】**  
建設コンサルタントってどんな仕事?  
行政から受注し、測量・調査を行い調査報告書/設計報告書を納める  
その報告書を受け、行政は施工業者へ工事を発注する  
具体的な業務の流れ(例: 道路)  
・地盤調査(車の重量、地震などの耐性)  
・水質調査(川や地下水に影響する場合)  
・工事前後で影響がないかを調査  
・生物調査  
生態系を調べて移動させたり、工事計画を変更したりする

野口謙二さん 入社3年目 総務チーム

**【専門知識を先輩から】**

Q) 設計チーム1年目目までどんな育成教育を受けていますか?

(大村)大学時代には設計を勉強してなかったんで、今は先輩と一緒に業務を行いながらひとつひとつ設計のやり方、図面の書き方などを学んで行ってます。専門知識も足りてないし、知らない専門用語もあるので、習得している段階です。

**【工事の振動騒音も調査します】**

Q) 仕事内容で騒音振動調査って?

(松田)入社するまで知りませんでした。例えば、家の隣で大きな音を出す工場があったら嫌ですよね。なので、現場作業で出る騒音や振動の基準を決めていて、測定して基準値を超える場合には作業方法や機器を変えるなどの提言を行う業務です。

**【後期博士課程で勉強します!】**

Q) キャリア支援が充実していると見えますが、働く前と今で変化は?

(大村)就活中に、福利厚生もしっかりしている会社だと思いました。入社後、先輩の指導も丁寧で働きやすさを実感しています。(松田)オオサンショウウオの事がしたくて入社しましたが、もっと勉強したくて大学の後期博士課程に行きたいと会社に相談しました。前例がない事だったので、社長や専務から「頑張ってください」と支援体制も作ってもらい、来年から行ける事になりました。勉強し専門的なアドバイスができるようになりたいと思います。社員の頑張りたい事を支援してもらえる会社です。

**【様々な場面でドローンを活用】**

Q) 現場でDX(ICT)が導入されているという事ですが、実態はどうか?  
(松田)私の業務は、現場の工事で進めているICTとは少し離れていますが、積極的に活用したいなとチーム内で話をして、調査でドローンによる撮影を行って報告に使用し

- ・測量(現在の地形を図面化する)
- ・用地測量:  
立会(地権者に買収範囲を確認)測量(境界決定後買収面積算出)登記書類作成  
補償(家、樹木の移転費用など)

- 建設コンサルタント・エスジーズの魅力
- ・自分が調査・測量・設計したものが後世に残る
  - ・自分たちがまちを創っている
  - ・みんなの生活を豊かにすることができる
  - ・最新の機器を導入し、常に最先端の知識と技術で挑戦できる
  - ・人材育成、ライフプラン支援に力を入れている

たら、分かり易いと評価され、今後も活用したいと考えています。(大村)今年、災害の業務で現場に行った際に、ドローンを使って撮影を行うと、上空から俯瞰して災害現場の全体像がつかめるので、そんな方向で活用しています。

**【コミュニケーションカで対応】**

Q) 学生時代においておけばよかった事は?  
(大村)大学での勉強とは違う分野の業務なので、就職が決まった時点で、基礎知識を身に付けておくべきだったなと思っています。本などで事前に勉強はしたものの、ある程度勉強期間が必要ですね。(松田)学生時代は部活ばかりでしたが、部活での上下関係の理解だったりコミュニケーション力は得られたと思っています。仕事の際の対応力を付けておくことが重要で、そのためには学生時代に色々な経験をやる事だと感じています。